



本で世界を広げよう！

実は・・・
すごい図書館なんです

貸出数全国第1位

蔵書数全国第2位

(開架約 16 万冊、書庫約 16 万冊)
※人口 3 ～ 5 万人規模の自治体にある図書館

子ども向けのイベントが
充実してます！

図書館ボランティアさんの活動がとても活発で、読み聞かせや紙芝居、人形劇、影絵、お話など毎週木曜と土曜はほぼ何かの催しがあります。子どもを本好きにさせたい、されどなかなか思いうるお母さん！ぜひお子さんをお連れくださいね。



〜編集後記〜
今回、我々特派員の子もたちも、本の森たんけん隊に参加させていただきました。インターネットに慣れ親しんだイマドキの子たちですが、本を探すその姿のまあ真剣なことと言ったら！そこには知る喜びがあられておりました。

いながわ図書館の会 リブロ
代表 籠谷さん

ここ 4 ～ 5 年は図書館行事の企画にかかわっていますが、利用される方と接したり意見を聞くとやりがいを感じます。今まで利用したことのない方も、ぜひ図書館に足を運んで、生活に沿った身近な問題を調べてほしいですね。



▲アドバイス
する 籠谷さん
(左)

図書館職員さんのお話

本は発見の宝箱

「本の森たんけん隊」は、子どもたちが本を探す方法を知り、クイズの答えを探してあちこち探し回ること、で、「あれ、こんな本あるんだ」と、本の世界が広がるきっかけをつくる企画です。本で答えを探すと、答えのページにたどり着くまでの間にいろんな発見があります。いろんな本に出会って、自分で答えを見つける喜びを知って欲しいです。

最近ではインターネットの普及で答えがすぐ見つかった、調べもので図書館を使うことが減っているようですが、「本の森たんけん隊」の参加をきっかけに、図書館に足を運んでくれる子どもたちが増えたらうれしいですね。



▲図書館職員の
坂尻さん (左)、森さん (右)

今月号から
私たちが担当します



山本のゆり

いながわ
特派員報告



岩井 亜希子

子どもたちにたくさん本を読んで欲しい、わくわくしながら本の世界を冒険して欲しい…。我々大人は思います。世はインターネット時代ではありますが、本の世界の豊かさはまた格別なもの。今回は猪名川町立図書館で「本を読むこと」の大切さを取材してきました。

本の森たんけん隊、
集合～！



3月31日(火)、町立図書館で「本の森たんけん隊」が開催されました。子どもたちに本に親しんでもらおうと、毎年3月に開かれる恒例のイベントです。今回は20人の参加がありました。

クイズ形式の「もんだいノート 2015」を配られた参加者は、あちらこちらと書架をめぐる本を開き、ヒントを探し、一生懸命答えを見つめます。友だちと情報交換したり、図書館では走っちゃダメ！なんだけど小走りになったり、みんな真剣！



▲ヒントを教える小川さん

活動をしている「ゆめっこ」代表で、「リブロ」にも所属の小川さんにお話を伺いました。

小川さん 例えばこの問題は何を聞いているのかな？植物かな？歴史かな？地図かな？という風に導くようにしています。

特派員 本の分類の概念が身につきますね。図書館ボランティアを始められたきっかけは何ですか？

小川さん きっかけはね、猪名川町に図書館ができてほしかったからです。図書館設立前から関わってきているので、もう25年になります。子どもたちが本を好きになるということ、それは一生の財産ですよ。本は人生に潤いをもたらしてくれます。

参加した子どもたちの声

- ・ 普段学校ではネットで調べるけど、違う調べ方が勉強できてよかった。
- ・ 普段は入れない書庫に入れておもしろかった。
- ・ 図書館の人が一緒に探してくれたから、楽しく本探しができた。

などなど、みんな満足そう。話を聞かせてくれた子どもたち全員が、「おもしろかった。来年も参加したい！」ですって。素晴らしい！



▲参加賞として、本の森たんけん隊認定証・雑誌のふろくなどがもらえました。

本の世界の扉を開けて、
子どもたちに知る喜びを

猪名川町立図書館